

在家仏教講演会 開催ご案内

東京 時間：午前10時～11時30分
会場：中野サンプラザ7階研修室10（中野区中野4-1-1）
会場整理費：700円 問合せ：03-6684-6692

1月27日（土） この世とあの世
三橋 健 先生 国学院大学名誉教授

2月10日（土） 死者は生きているー日本仏教の特徴
峯岸正典 先生 長楽寺住職

2月24日（土） この世とあの世
佐藤 研 先生 立教大学名誉教授

3月10日（土） 震旦の小釈迦と呼ばれた人
池田魯参 先生 駒澤大学総長

3月24日（土） 二つの浄土ー化土と報土
長谷正當 先生 京都大学名誉教授

大阪 第3金曜日 午後3時～4時30分
会場：堂島アバンザ5階または14階（北区堂島1-6-20）
会場整理費：500円 問合せ：06-6346-7000

3月16日（金） 道昭 こんな人がいた！
西山 厚 先生 帝塚山大学文化創造学科教授

5月18日（金） 往生伝にみる＜笑み＞
池見澄隆 先生 仏教大学名誉教授

名古屋 第3水曜日 午後1時30分～3時
会場：いちご丸の内ビル9階（中区丸の内3-17-13）
会場整理費：500円 問合せ：052-962-4181

2月21日（水） 現代仏教の世界観
立川武蔵 先生 国立民族博物館名誉教授

いのち尊し

駒沢大学元総長の奈良康明先生が昨年十二月十日、八十八歳で亡くなった。本協会の理事を十五年にわたって務め、機関誌「在家仏教」に連載「ブツダ最後の旅をたどる」などを執筆された。

宗教間対話を目指す「禅とキリスト教懇談会」の事実上の代表でもあった。昨年夏に関西で開かれた例会のあとで、親しい方に「肝臓がんらしい」と漏らされたそうだ。ある方が「淡々と話しておられましたよ」と私に伝えてくれた。その旅行から東京に戻ってご自分の法清寺に電話を差し上げた。少し細かいお声で「いつ終わりになるか、それが分からないのが厄介でね」と、他人事のように話される。十一月には「病状がこんなに急変するとは思いませんでした。数日前に退院したのですが、今日から再入院です。おそらく、帰れません」とのメールをいただく。

さっそく、東京都港区の病院をお訪ねした。心配していたよりもお元気だった。私が「生涯を通じて尊敬された方は」と尋ねると、

まずは東京大学で教えを受けた中村元先生を挙げられた。「学問、思想の人として。そして、あの穏やかなお人柄」とのこと。さらにもう一人は、教員をされ、のちにお寺に入られた亡きお父上だった。二週間して、ふたたび同じ八十三号室を訪ねる。前回に続いて影響を受けられた方の話になった。沢木興道、酒井得元、鈴木格禅：。ベッド脇のテーブルには、書き込みが入る「文化としてのインド仏教」というゲラ刷り原稿が

奈良康明先生を悼む

あった。「何とか目を通しておきたくて」とのことだった。そして、病状は持ち直しているように思われた。十二月に入って退院され、ご自坊に戻られた。意識もすっかりしておられたが、容態は急変する。「気づいたときには呼吸が止まっていました」とご子息で住職の修一さん。お目にはかかれなかったが、いつもの優しいお顔だったに違いない。

山口市にある詩人・中原中也の記念館にも立ち寄られました。学者らしくない、幅のある方でした。平成二十二年に夫は亡くなりました。葬儀は奈良先生にお願いたく思い、お手紙をお出ししました。宗旨は違っていたのですが、快く承諾下さいました。さらに永平寺にもお参りさせて頂いた。永平寺にもお参りさせて頂いた。雲導師を務めてくださいました。雲水の方が百人あまり参加して下さり、深く心を打たれました。

菅原伸郎 (在家仏教協会理事長)

十二月十二日の夕方、法清寺の仏教講座の幹事さんより電話があり、奈良康明先生が亡くなられたことを知りました。その数日後には講座恒例の忘年会が予定通りに開かれ、みなさんとともに先生の思い出を語り合いました。

私は在家仏教協会の古い会員です。先生は協会の理事であり、長い間講師としてお見えでしたが、

いつも若々しく澁刺としたお姿でした。当初、仏教の素養のない私には難しいお話でしたが、何か心惹かれるものがありました。協会創立五十周年の記念行事が平成十四年にありました。山口県防府市へ先生ご夫妻とご一緒し、理事長を務めていた夫・寛之助とともに湯田温泉に泊ったことが思い出されます。その折り、先生は

中村伊都子 (在家仏教協会会員)

連続講演会は「一本立てに

昨年十一月三十日に在家仏教協会の第六百二十四回理事會が駿河台の新事務所で開催されました。

事務局からは、連続講演会「この世とあの世」の開催で東京会場に来場者数が持ち直している、大阪会場は毎回三十名から四十名の来場者があり、盛會を維持している、名古屋会場は来場者が十名を下回ることが多い、などの報告がありました。

このような状況を鑑み、四月からの平成三十年度は、東京会場での連続講演會を「宗教と労働」と「仏教と文学」の二本立てとすることにしました。

「宗教と労働」の概要

在家仏教協會は、職業や家庭を持って日常を送る在家者たちの団体です。会員の皆さんの多くは、日々自分のため、家族のため、社会のために働いてきました。では、そのように働いていては、宗教を学ぶことはできないのでしょうか。台所や田んぼ、工場や会社で働くことは、宗教生活と矛盾するのでしょうか。しかし、過去には「日々、

額に汗して働くことこそが宗教生活だ」と語った先人もいたそうです。

そこで、働くことと宗教生活の両立を模索してみたく思います。働き過ぎや働き方改革などが話題にもなっています。働くことの意味を改めて探ってまいります。

講師には、加藤みち子（東方学院講師）、深井智朗（東洋英和女学院副院長）、ケネス田中（武蔵野大学教授）、田上太秀（駒澤大学名誉教授）、阿満利磨（明治学院大学名誉教授）、本多弘之（親鸞仏教センター所長）ほかの諸先生を予定しています。

「仏教と文学」の概要

一昨年の講演会では、「萬葉集」や漱石の「こころ」を基盤にある仏教思想について学びました。今回はその続編として、古事記、平家物語、芭蕉文学などを取り上げていきます。

講師には、伊藤益（筑波大学教授）、瀬間正之（上智大学教授）、鉄野昌弘（東京大学教授）、清登典子（筑波大学教授）、中野東禅（龍宝寺住職）、樋口達郎（筑波大学特任研究員）ほかの諸先生を予定しております。

この一冊

『仏教百話』

増谷文雄著（ちくま文庫）
高梨和巨
月刊「大法輪」編集部

大法輪二〇一七年十二月号の編集後記に「情報は用が済めばそれっきり忘れ去りますが、物語は知ってしまうと知らなかった昔には戻れなくなる」と書かれています。書いたのはわたしですが、この一冊は宗教学者・釈徹宗先生のご主張の受け売りです。大法輪の当号では「心に響くお経の物語」を特集しました。情報とは違うという点がこの企画の読みどころです。

「物語」特集のヒントになった一冊が増谷文雄著『仏教百話』です。この本は仏陀のエピソードをベースにして縁起・中道・慈悲などの仏教のおしえが見開きの一話ごとにまとめられています。増谷先生（一九八七年没）は当協会創立発起人の一人で、休刊した在家佛教の初代編集長を務めた我がが大先輩です。

一場面を紹介します。仏法僧の僧をめぐって仏弟子のアーナンダ

が、善き友を持てば仏道のなかばを成就したと言えますかと尋ねると、仏陀は「そういう考え方は正しくない」とたしなめます。言い過ぎたかと思ったら「この聖なる道のなかばにあたるのではなく、まったくそのすべてなのである」と仲間の大切さを説きます。

こんな会話もあります。目の不自由な弟子アヌルツダが誰か針に糸を通してくれと頼むと、「わたくしが功德をつましてもらおう」と、手をさし出したものがある。その声は、まぎれもない、仏陀であった。アヌルツダは、おどろいて、とびさがった。：「世尊にそのようなことなど、思いもよらぬことでございます」「アヌルツダよ、世間のさいわいを求める人、またわたしにまざる者はあるまい」。

まるでその場に居合わせているような臨場感あふれる描写です。ちなみにこの功德のシーンは大法輪の特集でも取り上げており、読み比べてみるのも一興かと思えます。そうです、繰り返し読んで味わえるのも物語の特長なのです。

三法印や八正道を丸暗記させるような入門書ではくはゆきません。物語の世界を通じて尊い教えを共に学んでまいります。

「いのち尊し」投稿規程

◇随想「仏教と私」（八百字まで、または千五百字まで）
人生を振り返って仏教と出逢ったときの感動などをお書きください。
◇コラム「この一冊」（八百字以内）
感銘を受けた書籍を紹介してください。新刊だけでなく、思い出しの本も歓迎します。著者名、出版社名、発行年を忘れずに。

*
原稿用紙またはメールに添付して、左記宛てにお送りください。住所、氏名、電話番号、できれば職業と年齢もお書きください。読みやすくするために、あるいは編集上の都合で、趣旨を変えない範囲で削ったり直したりする場合があります。採用文には薄謝をお送りします。また、不採用の原稿はお返ししませんのでコピーを手元に残してください。

原稿の送り先は〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-3 五明館ビル202号
在家仏教協会「いのち尊し」係
メールは info@zaikebukkyo.com

在家仏教通信

事務所引越しました

在家仏教協會は、昨年の十一月千代田区神田駿河台の五明館ビルに引っ越してまいりました。

ビルの大家さんは、代々この界限の大学の学生さんたちの下宿をされていたとのことでした。

JR御茶ノ水の聖橋口を出て、池田坂を五分ほど下ったところだす。池田坂の名は、元禄の頃、日大病院の所に池田市之丞の屋敷があったことに由来するそうです。街路樹に、ニコライ堂の鐘の音が暖かく響き、こころをいやしくれます。近くに来られましたら、是非お立ち寄りください。

住所

〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台三丁目三番 五明館ビル202号
電話番号
TEL: 03-6684-6692
FAX: 03-6684-6709
交通アクセス
JR御茶ノ水駅 徒歩四分
千代田線新御茶ノ水駅 徒歩二分

新事務所地図



会費の支払いが「コンビニでも可能」

十月より会費の請求業務をリリース株式会社へ委託することになりました。会員の皆様への請求書はリリースよりお届けいたします。

これにより、会費はコンビニでもお支払いが出来るようになります。もちろん、郵便局での支払いは従来通りです。なお、皆様の個人情報、請求書のお届けの目的の範囲内でのみ利用させていただきます。

入会のご案内

協会では会員を募集しております。私どもは、皆様の会費と寄付によって活動しております。協会の発展のためにご協力を宜しくお願い致します。

氏名、住所、電話番号を協会事務所へご連絡下さい。会費の振込用紙をお送りします。

年会費
賛助会員 一万七千円（一口）
正会員 八千円

■月刊誌「大法輪」を毎月お届けいたします
在家仏教講演会の筆録が掲載中

■機関紙「いのち尊し」を毎月お届けいたします

■講演会の動画を視聴出来ます
東京会場を中心に三十本配信中心

■協会六十周年記念誌
『「講演集」悲喜をよつこぶ』
『「対談集」掌を合わせて生きる』
を呈呈します